

JOUHOKU SHINDAN

誌

【2018年6月号】

JOUHOKU SHINDAN 誌
— 第44号 —
2018年6月10日発行

今回は5月19日(土)に開催された城北支部大会特集です。城北支部大会(以下、支部大会)全体の概要、城北チャレンジ賞の表彰およびプロコン塾卒業生代表プレゼンテーションの優勝者インタビューという3種類の記事でお送りさせていただきます。支部大会に出席された方も、欠席された方もぜひお楽しみください。

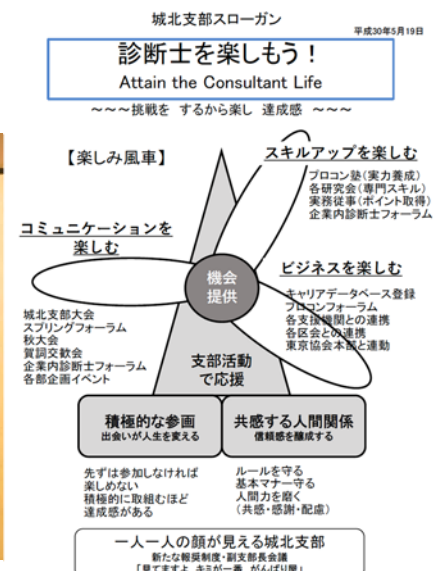
【支部大会特集①】支部大会と懇親会の様子 城北支部 坂本敦史



台東区上野の「オーラム」で東京都中小企業診断士協会城北支部大会が開催されました。年に一度の大イベントである支部大会だけあり、150名近くの会員が集まりました。まずは、清水前支部長による開会の挨拶から支部大会はスタートです。冒頭は、平成29年度の事業報告と決算報告でした。城北支部の会員数は470名(平成30年3月31日現在)で、昨年よりも21名増えています。東京協会全体では55名の増加のため、半分近くが城北支部に入部している状況です。城北支部には、13の部と12

の研究会、および区会等6団体が存在します。各代表の方が、この1年間を振り返りどのような活動を行ってきたのか、次の1年はどのように計画しているのか、を説明いたしました。

その後は、平成30年度より就任となる長谷川新支部長からのご挨拶です。長谷川新支部長が城北支部に入部された当時は、会員数約100名(平成12年)でしたが、現在は470名にまで増加しました。多数の会員が在籍する状況でも、「顔が見える城北支部」を実現するために経験と実績が豊富な6名の副支部長に支援していただくとのことでした。



歴任の支部長が築き上げてきた城北支部のいいところ取りとご謙遜されておりましたが、新体制におけるスローガンを「診断士を楽しもう！」と掲げられました。「このスローガンは風車の形に例えられ、①コミュニケーション、②スキルアップ、③ビジネスの3つを風車の羽根として、これらを回転させながら診断士を楽しんで欲しい」という思いを述べられておりました。また、「風車の土台として、支部活動という名の柱が存在し、その柱を支えているものは、①積極的な参画、②共感する人間関係の2つである。この風車を支えるためにも、会員の皆さまが積極的に活動しやすい環境を維持していきたい」と、力のこもったご挨拶をいただきました。

支部大会終了後は、懇親会が開催されました。行政関係の方々や東京都中小企業診断士協会米田会長をはじめ多数のご来賓をお招きして、ご挨拶を頂戴いたしました。立食形式の懇親会では、参加者の方々は美味しい食事とお酒を召し上がりながら、名刺交換や自己紹介を交えて支部内外の交流を深めておられました。このようなベテランから若手までが一挙に集まるような会はあまりないため、参加された支部メンバーは活発に情報交換をされていました。

懇親会の結びは、清水前支部長のご指名により、プロコン塾卒業プレゼンテーションにて優勝された鶴頭先生による3本締めで幕引きとなりました。多くの出会いと刺激をいただくことができた盛大な懇親会となりました。



今年も盛大に行われた懇親会

～初参加の感想～

平成29年度の診断士試験に合格し、城北支部に入部した坂本敦史と申します。この度、初めて城北支部大会に参加させていただきました。支部大会では多くの部、研究会、区会等がどのような1年間の活動を行っているかを拝聴することができ、文面では得られない情報などを伺うことができました。

また懇親会では、多くの先輩方に囲まれ緊張もいたしましたが、皆様のご厚意により沢山の先輩方をご紹介していただきお話をすることができました。まだまだ、右も左もわからない状態ではありますが、今後ともよろしく願い申し上げます。

【支部大会特集②】城北チャレンジ賞の表彰
城北支部 島津浩平

本年度は5名の先生および1団体が城北チャレンジ賞を受賞され、表彰状と賞品を受け取られました。受賞の理由を含めた概要は下記のとおりです。

石川知穂先生: 中小機構・東京商工会議所の専門家として中小企業支援活動を行うとともに、情報誌の取材活動を軌道に乗せられた

大東威司先生: 東京都への政策提言や支部内の研究会において、中小企業におけるエネルギー対策等の研究情報の積極的な提供をされた。

平岳彦先生: 城北支部のプロコン塾生として T-SMECA ニュースへの投稿を行い、台東区の補助金相談窓口において中小企業への積極的な支援活動に努められた。

森山真行先生: 商店街支援事業に積極的に取り組むとともに、研究会・プレゼンコンペでも成果発表を行われた。

横小路八重子先生: 健康経営研究会を立ち上げて軌道に乗せ、能力開発推進部においてもイベント関係活動全般で積極的に関与して活躍された。

音楽の戯れの8名: 城北支部会員を中心としたメンバーで演奏活動を行い、支部の活性化に努められ、支部会員の幅広い分野にわたる活動として内外から注目・期待された。



本年度受賞者の先生方と清水前支部長

【支部大会特集③】プロコン塾卒業生代表プレゼンテーション 優勝者インタビュー

聞き手：城北支部 島津浩平



毎年恒例のプロコン塾卒業生代表によるプレゼンテーション、今年は5名の先生方が成果を発表されました。成果発表後、城北支部の参加者による投票が行われ、鶴頭誠先生が見事優勝されました。

今回は鶴頭先生にテーマの内容やプレゼンテーションの仕方およびプロコン塾についてインタビューをさせていただきました。

Q1. 今回のテーマを着想された理由および苦労された点について教えてください。

着想した理由は、これまでの自身の支援経験でバラバラになっていたノウハウのようなものを、今後の支援先に伝えられるパッケージにしたかったからです。

苦労した点は、これまでの自身の経験と職歴を総動員しないと、他の発表者の方々に追いつけなかったことです。

私はまだ30代中盤で、社会人経験も15年弱。かつ独立診断士ではありません。一方で、他の塾生は、既に25年以上も勤務しているメンバーも多く、数々の事業企画を経験された方が多かったです。また既に独立した診断士の方々は、まさに実利ある支援パッケージを提案されていました。当初「商店街収益可能性指数」のみが提言内容でしたが、この状況を踏まえ、私の職歴を踏まえた「行政内商店街評価基準」を加えたダブル支援パッケージをテーマとしました。

Q2. プレゼンテーションおよび総合優勝された率直な感想を教えてください。

実は、会場の状況を踏まえて、若干プレゼンテーション内容を変更しました。

当初は、①商店街、②行政内、③診断士、という三軸を手ぶりで常に表現しながら展開しようと思っていましたが、現場の台座の前ではそのモーションが見えづらいことがわかり…、現場でマイクを使わず動きながら、左＝商店街、右＝行政内 真ん中＝診断士という形で動くプレゼンにさせていただきました。

総合優勝として、卒塾レポートとプレゼン大賞のダブル受賞をもらったことは大変光栄に思いました。もし今後のプロコン塾で成果物の製作に悩まれている方がいたら、自分なりの悩んだ点を伝え、今後のメンバーの方々が更なる支援パッケージを生み出していただけたらと思っています。

Q3. プレゼンテーション当日に話されていた今後の動きの内容・結果についてはいかがでしょうか。

プレゼンでお話したとおり、発表の翌々日に新潟県見附市に伺いまして、今回のお話をしてきました。自身の中小企業診断士の立場と経験を伝えたくて今回の発表内容をご案内したところ、市の職員の方々が大変理解をしてくださり、「次来る機会があったら是非寄ってください」と言われました。

午前中にお話伺ったのですが、その日の午後に地域商店街を支えるエリアマネージャーの方をご紹介いただきました。見附市の事業の関係で都内に来られることも多いとのことだったので、自身の祖母の実家である和菓子屋のある商店街と見附市におけるこれからの支援につながる人間関係ができたので、これからのがんばりどころが増えたと思っています。

Q4. プロコン塾に参加をされて、自分が変わったと思われたところなどはありますか。

自分が変わったと思うところは、独立に向けてのイメージづくりでした。

決して独立はゴールではなく、独立した直後にこそ様々な活躍手段があり、またステップアップの連続過程の中にあるのだと講師の方々の声をお聞きして感じました。

また、診断士として将来にわたりステップアップしなければならない覚悟も感じましたので、この意識を大事にして、これからの自身の支援キャリアも考えていきたいと思うようになりました。

よく私がお話する、愛知県岡崎市のまちゼミの伝道師の松井先生が「鶴頭先生、早く他県にも支援に行ってください」とおっしゃっています。このプロコン塾での経験を胸に、他県でもきつと役に立てるよう、現在できる支援を大事にして成長したいと思いました。

Q5. 最後に読者へのメッセージをお願いします。

城北プロコン塾の講師の方々は、とても親身になってくれる先生方が揃っています。このような先生方と仲良くなり、様々な先生の支援スタンスをお聞きすることにより、我流だった自身の支援スタンスを再整理できる滅多にないチャンスと思います。

ぜひ魅力的な先生がいらっしゃる城北プロコン塾を活用して、これまでの自身の支援スタンスに刺激を与えていただく機会に活用いただけたらと思っております。

本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。

⇒広報部員が潜入します。

・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。

⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します。

・診断士としてのノウハウを紹介したいなど。

⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

・企業内診断士の活動状況が知りたい。

・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。

⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての(批判も含め)感想をお聞かせください

・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

下記の連絡先までよろしくお願い致します。



johoku.kouhou@gmail.com

JOUHOKU SHINDAN 誌

2018年6月10日発行

発行者:城北支部長 長谷川 猛

編集者:城北支部 広報部